

〈グループ各社〉

(株)そごう・西武、(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)イトーヨーカ堂、(株)ヨークベニマル、  
(株)ヨークマート、(株)セブン銀行、(株)セブン・カードサービス、(株)赤ちゃん本舗、(株)ロフト、  
(株)セブン&アイ・フードシステムズ、(株)ニッセンホールディングス、(株)セブン&アイ・ネットメディア、ほか

株式会社 そごう・西武 会社概要

代表取締役社長	林 拓二	西武店舗
従業員数	6,661人(2019年2月末)	池袋本店 渋谷店 所沢S.C. 東戸塚店
営業収益	6,152億円(2019年2月末)	大津店 福井店 岡崎店 秋田店
店舗数	15店舗(2019年10月1日現在)	そごう店舗
		横浜店 千葉店 広島店 大宮店
		川口店 西神店 徳島店

株式会社 そごう・西武

〈お問い合わせ先〉  
CSR・CSV推進室  
郵便番号 102-0084 東京都千代田区二番町5番地25  
二番町センタービル  
電話番号 03-6272-7409 FAX 03-6272-7129



(株)そごう・西武のCSR活動  
<https://www.sogo-seibu.co.jp/CSR/index.html>



本冊子は、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷、VOC(揮発性有機化合物)ゼロの植物油インキ、見やすく間違えにくいユニバーサルデザインフォント、FSC®森林認証紙を採用しています。制作時に排出したCO<sub>2</sub> 4,549kgは、カーボンフリーコンサルティングを通じてオフセット(相殺)されます。

お願い 本冊子をご不要になった際は、再資源化のため、お住まいの地域のルールでリサイクルくださいますようお願いいたします。

2019年11月発行



# 想い

異常気象、海洋汚染、森林破壊  
超高齢化、教育格差、地方の衰退  
女性の社会進出、働き方革命……

今から20年前。

どれだけの方が、このような世の中を想定していたでしょうか。

時代がまだ、未来に対して楽観的な思いを描いていたころ、  
豊かなくらしをつくり続けたい。という想いから、  
私たちの取り組みがはじまりました。

1999年

西武百貨店が、百貨店で初めて  
環境に関する国際規格  
ISO14001を取得  
※そごうは2011年に取得

2003年

そごうで  
盲導犬育成支援開始  
※西武は2004年から開始

2009年

ザンビアのこどもに  
靴を贈る下取りサービス開始  
植樹・育樹活動につながる  
グリーンラッピング開始

2013年

ザンビアの  
妊産婦支援につながる  
オリジナルホワイトリボン  
ピンバッジを販売開始

2017年

全従業員を対象に  
社会課題の解決と  
企業価値の創出につながる  
CSV※アイデアコンペを開始

※CSV(共有価値の創造):社会価値と  
経済価値を両立させる取り組み

2019年

セブン&アイグループ  
環境宣言『GREEN  
CHALLENGE  
2050』策定

# つなぐ

百貨店の存在価値ってなんだろう。

私たちは、そこから考えました。

百貨店は、街のまん中にある。

百貨店は、たくさんの人が働いている。

百貨店は、たくさんのお客さまが来る。

つまり百貨店は、人と人がつながる場所。

そうして私たちの活動の輪は、

だんだんと広がっていきました。



# 未来へ

そして、10年後の未来に向けて。

誰ひとり取り残さない社会をつくるために、  
世界中の人たちが、手を取り合っています。

私たちはこれからも、社会の一員として、  
もっとたくさんの人たちとの輪を広げながら、  
未来につながる百貨店を目指していきます。



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

2015年国連で採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)」は、「人間が地球にずっと住み続けられるように発展する」ために掲げられた国際社会の目標です。

そごう・西武は、環境・社会・経済が一体となった事業活動を通じ、お客さまやお取引先、地域とともに「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組むことを基本理念としています。

従業員一人ひとりの活動を積み重ねることで、SDGsの目標達成に向け、さらに取り組みを強化してまいります。

# 地域のつなぎ手として。

お客さまや地域の皆さま、行政、学校、NPOなどがつながる仕組みや場を提供することで、百貨店の活性化とともに、社会課題解決のヒントを生み出しています。



そごう  
広島店



**高速バスを活用した地域産品のデリバリーでCO<sub>2</sub>の排出を削減**

高速バスのトランクに地域産品を積み込み、乗客とともに運ぶ「貨客混載」を実施。CO<sub>2</sub>排出の削減はもとより、地方の名産品の販路拡大にもつながりました。



西武  
福井店

**地元公共交通機関4社と連携し、駅前集客キャンペーンを実施**

そごう  
大宮店

**埼玉県庁と連動し、「海なし県で考える海洋プラスチック問題」キャンペーンを開催**

そごう  
千葉店

**地元大学と連動し、夏休みのこどもイベントを開催**

千葉工業大学の学生が企画、会場設計、運営を行う「夏休みキッズアカデミー」を開催。参加したこどもたちに学びを提供するとともに、大学生が実社会に触れる学びの場となりました。



西武  
渋谷店



**廃棄予定の懸垂幕を再利用したリメイクバッグを製作・販売**

バッグのデザインを文化服装学院が、会場装飾を東京デザイン専門学校が担当。メーカーが製作したバッグを西武渋谷店で販売し、売上の一部を渋谷区に寄付。すべて渋谷区内のメンバーで循環する「地産地消リサイクル」の取り組みとなりました。



西武  
大津店



**琵琶湖の外来魚を肥料にして育てたぶどうを販売**

そごう  
徳島店

**地元クリエイターと連動し、新しい藍染の魅力をご紹介**

## In Focus

従業員のアイデアを地域の活力につなげる「CSVアイデアコンペ」

そごう・西武では、全従業員を対象に、2017年から毎年「CSVアイデアコンペ」を開催。各々が日頃感じている社会課題を解決すると同時に、百貨店の価値も高めることができるアイデアを募っています。



「アイデアコンペ」と記載されているものは、応募アイデアを実現させた事例です。



みんなのやさしさ、  
つなぎたい。

私たちは、「社会のために、少しでもお役に立てることをしたい」という  
お客さま一人ひとりのやさしいお気持ちと、「植樹・育樹」「途上国支援」  
「盲導犬育成支援」を行う社会貢献団体とを“つなぐ”活動を行っています。  
10年以上継続しているこれらの活動によって、  
国内外に笑顔の輪を広げ続けています。



## 植樹・育樹



お客さまのアクションが、森林再生と地域振興につながる仕組みをご提供しています。

植樹した本数 **14,051本**\*



※2009年から2019年8月までに

プレゼントギフトをご注文の際に、税込100円の「グリーンラッピング」をお  
選びいただくと、その内の50円が認定NPO法人 環境リレーションズ研究  
所への寄付となり、植樹・育樹につながります。グリーンラッピングは80件  
で1本分の植樹に、またお中元やお歳暮ギフトの簡易包装4,000件、食品フ  
ロアでのレジ袋ご辞退1万枚で、それぞれ1本分の植樹につながります。



### Topic

この活動がスタートした2009年に植樹を  
行った場所は、10年の歳月を経て森へと成  
長しています。また私たち社員も、労働組合  
活動の一環として、毎年1回ボランティアに  
よる植樹活動を実施しています。



## 途上国支援



お客さまからお預かりした子ども靴を、ザンビアの子どもたちに贈ります。

お預かりした靴 **91万245足**※



※2009年から2019年8月までに

各店に「子ども靴 下取りコーナー」を常設し、使わなくなった子ども靴1点につき、子ども服売場での買い上げ税込5,000円ごとに1枚ご使用いただける「500円割引券」とお引き換えしています。お預かりした子ども靴は、公益財団法人ジョイセフを通じてザンビア共和国に届けられ、子どもたちの足を寄生虫病や破傷風から守っています。



### Topic

各店では夏休みのイベントで、子ども靴がザンビア共和国に届けられるまでを紙芝居でご紹介しました。日本の子どもたちのグローバルな視点を育む教育にもつながっています。



紙芝居の動画はこちら  
からご覧いただけます。

## 盲導犬育成支援



盲導犬への理解を深め、育成を支援する活動をお客さまとともに推進しています。

寄付した募金額 **6億2,466万円**※



※2003年3月から2019年8月までに

視覚に障がいのある方と盲導犬へのご理解を深めていただくために、盲導犬をかたどった大型募金箱をそごう・西武全店に常設し、年2回「盲導犬ふれあいキャンペーン」を開催しています。さらに、社内で「そごう・西武基金」を設立するとともに、従業員が毎月の給与から自動引落で積み立てる「ワン! コイン倶楽部」の募金を任意で実施し、全国の盲導犬育成団体に寄付しています。



### Topic

各店では新入社員が、社会人初の社会貢献活動として盲導犬募金活動に参加しました。また従業員を対象に「盲導犬受入れセミナー」を実施し理解を深めています。



# 未来につながる、百貨店に向けて。

百貨店ならではの商品やサービスで、次世代に続く豊かなくらしづくりに取り組みます。

## 環境

商品やイベントを通じて地球環境の保全を推進しています。

### 持続可能な天然水産物「アラスカシーフード」を販売



養殖を禁止し、漁法や漁獲量の管理を厳格に行うことで、豊かな自然や生き物たちを守り、次世代につなげていくことを目的としたアラスカの水産業。そごう・西武では定期的に「アラスカシーフードフェア」を開催するとともに、お歳暮ではアラスカシーフードギフトのご提案を行い、100年後も継続できる漁業に貢献しています。



アラスカシーフードコーナー

### 使わなくなった服を回収し、価値のある商品へと再生



日本環境設計株式会社では、使わなくなった服を回収し、独自技術でリサイクルした「BRING Tシャツ」を販売しています。そごう・西武ではこの活動に賛同し、自主編集ブランドを展開する7名のクリエイターにTシャツのデザインを依頼。従来のリサイクルから一歩進み、元の製品よりも価値の高い「アップサイクル」商品として、西武池袋本店、渋谷店、そごう横浜店、千葉店、大宮店、eデパートで販売しました。



クリエイターとコラボしたTシャツ

### 全従業員に向けた環境教育を推進



毎月、社内掲示板等に掲出する「環境ニュース」の発行や、毎年1回、全従業員に向けた「環境eラーニング」を行うことで、自社の環境・社会貢献活動やSDGsに対する理解を深めています。また、本業にも活用できる環境の知識を修得するために「eco検定(環境社会検定試験)」受験を推進。2019年8月末現在のエコピープルは385名となりました。

## ダイバーシティ

すべてのお客さまにお買い物をお楽しみいただくためのお手伝いをしています。

### 全店舗で認知症サポーターの養成を推進



高齢化が進むなか、認知症のお客さまやご家族の方にも安心してお買い物を楽しんでいただくため、各店に講師役であるキャラバン・メイトを配置し、認知症サポーター養成講座を開催。接客にあたり適切に対応できるよう、認知症について学んでいます。2019年8月現在、そごう・西武登録のサポーターは約4,900名にのぼります。



目標は、社員全員の知識修得

### 初めてのママを応援「プレママステーション」



「出産に向けて、何を準備したらいいのかわからない」、「育児について周りに相談できる人がいない」など初めて出産・育児を経験するママたちのために、一部店舗ではお悩み解消カウンター「プレママステーション」を設置。新米ママの不安や悩みに、常駐の助産師がお応えします。また、親子で楽しめるイベントも開催しています。



出産・育児を応援する「プレママステーション」

### LGBTを理解し対応する従業員研修を実施



西武渋谷店では、LGBTへの理解と支援を表すレインボーの懸垂幕の掲出に併せ、従業員への研修を実施。LGBT当事者の方への接し方や、接客時のポイントなどについて学びました。研修には売場の販売員をはじめ、外商セールス、後方部門のスタッフなど、さまざまな領域から合計355名が参加し、関心の高さがうかがえました。



掲出された懸垂幕

## 文化

百貨店ならではの文化の発信や、  
質の高い教育の提供を推進しています。

### 街の中心で緑化による憩いの場を提供

西武池袋本店の「食と緑の空中庭園」は、印象派を代表する画家クロード・モネの作品からインスピレーションを得て造園された「睡蓮の庭」や、全長約165mの壁面緑化「グリーンウォール」、芝生の広場「グラスフィールド」など、多様な自然が息づく憩いの空間を提供するとともに、昆虫や鳥たちの休息の場となっています。

※食と緑の空中庭園は、社会・環境貢献緑地として「都市のオアシス」に認定されています。



食と緑の空中庭園



### 文化をつなぐ百貨店内の本格的な情報発信拠点

そごう横浜店の「そごう美術館」は、1,000㎡規模の本格的な美術館であり、百貨店内美術館として国内で初めて博物館法に基づく登録を行いました。企画・美術普及を行う専門の学芸員を配し、地域文化への貢献や、子どもたちとともに未来へ文化を伝承していくという視点を持った企画を発信しています。



美術館内のワークショップ



### 音楽・アートを軸とした子育て支援活動を推進

次世代を担う子どもたちに、「本物の文化」に触れてもらうイベントを実施しています。西武池袋本店では、地元の東京音楽大学と共催で「音楽づくり体験ワークショップ」を開催。また、そごう横浜店では、地元行政や幼稚園協会、大学等と連携し、未就学児を対象とした音楽やアートのイベントを定期的に開催。この取り組みが評価され、神奈川県「第12回 かながわ子ども・子育て支援奨励賞」を受賞しました。



地元大学生によるイベント



## || 商事事業部

企業や団体のあらゆるニーズにお応えするセールスプロモーション、ユニフォーム、記念品などの主要商材に加え、SDGsの目標達成に貢献する新たな取り組みをはじめています。

### ヘルスケアアプリ 「Cool & Beauty24」



「いつまでも健康で美しくありたい」という多くの声にお応えし、健康診断データをもとに「なりたい私」に近づくための行動をサポートするアプリを開発。健康年齢、きもちチェック、食事記録、睡眠記録のほか、順次機能を拡充し、24時間お客様の美と健康をサポートするお手伝いをしています。



スマートフォンで健康チェック

### お客様の状況を踏まえた 防災用品をご提案



相次ぐ自然災害に備えて、事業所の立地や従業員数などを踏まえたきめ細かな防災対策をご提案しています。賞味期限の長い食品や、期限管理システムなど、お客様の環境・社会貢献活動にも貢献するトータルなご提案は、高い評価をいただいています。



「オフィス防災EXPO」に出展

### 教育事業として、科学・ ものづくり体験施設を運営



2020年の教育改革を見据えて、教育事業の強化を推進しています。例えば渋谷区では、未就学児や小中学生を対象とした「子ども科学センターハチラポ」の事業運営を受託。科学やものづくりの楽しさを、さまざまな体験を通じて学べる各種イベントやサービスを企画・ご提供しています。



プログラミング教室

## II そごう・西武の環境方針

### 環境方針

#### 基本理念

私たちは、企業市民として社会的責任を自覚し、環境・社会・経済が一体となった事業活動を通じ、お客さまやお取引先、地域とともに、「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組みます。

#### 行動指針

1. 私たち自身の環境保全活動に加え、当社の事業活動を通じて、お客さまやお取引先の活動にも良い環境影響を及ぼすように努めます。
2. ①環境に配慮した品ぞろえやイベント、セミナーなどを通じたお客さまとのコミュニケーション強化  
②社会貢献活動などを通じた地域、社会とのコミュニケーション強化  
③地球温暖化防止対策や廃棄物の削減、リサイクルの推進などによる環境負荷の低減と環境保全の推進  
④環境教育の継続による法令順守とリスクマネジメントの徹底  
以上の活動を重点に、仕組みや手法の継続的な改善に取り組みます。
3. 従業員に対する継続的な教育と啓発活動を行い、一人ひとりが環境や社会問題に自発的に取り組むことにより、お客さまや地域社会に役立ち、信頼される企業を目指します。
4. 挑戦的な目標を設定し、一人ひとりが達成に向けた活動を実践しながら、結果の検証と改善を繰り返し、システムの向上を心がけます。

この環境方針は、従業員と当社のために働く全ての人に周知するとともに、一般の方々にも公開します。

2016年10月6日  
株式会社そごう・西武  
代表取締役社長 林 拓二

## II 2018年度 外部からの評価

- 「女性活躍推進法」優良企業認定 「えるぼし」最高位ランク認定(そごう・西武)
- 第22回 日本経済新聞環境経営度調査 小売り・外食部門3位(そごう・西武)
- 第72回 広告電通賞「フィルム広告最高賞」(そごう・西武)
- 第2回「グリーン・オーシャン大賞」銅賞(そごう・西武)
- 平成30年度 千代田区温暖化配慮行動計画書制度優秀賞(そごう・西武)
- 第48回 衆議院議員総選挙に係る総務大臣表彰(西武池袋本店)
- 第12回 かながわ子ども・子育て支援奨励賞(そごう横浜店)
- 平成30年度 秋田市事業系一般廃棄物減量等優良事業者表彰(西武秋田店)

## II セブン&アイグループの環境宣言

### GREEN CHALLENGE 2050

セブン&アイグループは、全国の店舗ネットワークとサプライチェーン全体で、さらなる環境負荷低減を推進し、豊かな地球環境を未来世代に繋いでいくため、2019年5月、環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』を定めました。

4つの取り組みテーマ	2030年の目指す姿	2050年の目指す姿
CO <sub>2</sub> 排出量削減	グループの店舗運営に伴う排出量30%削減(2013年度比)。 自社の排出量(スコープ1+2)のみならず、スコープ3を含めたサプライチェーン全体で削減を目指す。	グループの店舗運営に伴う排出量80%以上削減(2013年度比)。
プラスチック対策	オリジナル商品(セブンプレミアムを含む)で使用する容器は、環境配慮型素材(バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等)50%使用。 プラスチック製レジ袋の使用量ゼロ。使用するレジ袋の素材は、紙等の持続可能な天然素材にすることを旨とする。	オリジナル商品(セブンプレミアムを含む)で使用する容器は、環境配慮型素材(バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等)100%使用。
食品ロス・食品リサイクル対策	食品廃棄物を発生原単位(売上百万円あたりの発生量)50%削減(2013年度比)。 食品廃棄物のリサイクル率70%。	食品廃棄物を発生原単位(売上百万円あたりの発生量)75%削減(2013年度比)。 食品廃棄物のリサイクル率100%。
持続可能な調達	オリジナル商品(セブンプレミアムを含む)で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料50%使用。	オリジナル商品(セブンプレミアムを含む)で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料100%使用。

## II セブン&アイグループの重点課題

### 5つの重点課題

セブン&アイグループは、ステークホルダーの期待や要請にお応えするため、ステークホルダーとグループの事業にとって重要な5つの課題を特定し、グループ一丸となって取り組んでいます。

重点課題1 高齢化、人口減少時代の社会インフラの提供	
重点課題2 商品や店舗を通じた安全・安心の提供	
重点課題3 商品、原材料、エネルギーのムダのない利用	
重点課題4 社内外の女性、若者、高齢者の活躍支援	
重点課題5 お客様、お取引先を巻き込んだエシカルな社会づくりと資源の持続可能性向上	

そごう・西武は、セブン&アイグループの一員として、環境宣言の目標達成および重点課題の解決に向け、取り組みを推進しています。